

平成21年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校の日頃の学習で積み上げられた基礎学力をはかるものであるとともに、単なる知識だけではなく、思考力、判断力、表現力等を問うものとなるよう、配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は299.8点で昨年度に比べて26.1点上昇した。教科別にみると、国語が3.2点、社会が5.0点、数学が8.9点、理科が2.5点、英語が6.5点と5教科すべて昨年度の平均点を上回った。

【国語】

文章を読んで大筋を把握する力、話を聞き取って内容や展開を理解する力について、中学校での継続的な学習の成果がみられた。また、作文に取り組む姿勢についても概ね良好であった。しかし、分量のある論理的な文章や文学的な文章を読みこなす力、出題の意図や条件を踏まえて的確にまとめる力及び語彙力には個人差がみられた。また、漢字等の正確な表記や、文をきちんと完結させるという点にも課題が残った。今後は、言語事項の基本を丁寧に押さえた上で、長めの文章を読みこんだり、条件に応じて適切に表現したりする学習が望まれる。

【社会】

全体の正答率は63%であり、基本的な知識は概ね身につけていると考えられる。地理・歴史・公民各分野の定着のバランスも良好であった。また、時事的な問題の正答率が高く、社会事象に対する興味・関心を高める指導の成果があがりつつあるといえる。しかし、資料等を読み取り、記述する問題については、問われていることを正しく理解し、それを踏まえて的確に答えることに課題が残り、今後はこうした力や、自分の考えをきちんと整理し表現する力を伸ばすことが望まれる。

【数学】

数と式の計算や方程式を解くことなどの基本的な計算力、図形に関する基礎的な技能及び知識は概ね定着しており、これらの基礎的・基本的な内容の定着については、中学校における学習の成果がうかがえる。しかし、数学用語についての理解、問題を読み取る力や数学的に表現したり処理する力、平面図形について論理的に考察し処理する力については個人差がみられた。また、複数の知識を組み合わせて解くことについても課題が残った。今後は、これらの力を一層伸ばすとともに、継続して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることが望まれる。

【理科】

名称等を答える問題や、基礎的な計算方法を用いて算出する問題については正答率が高く、中学校での指導の成果がよく表れていた。反面、実験結果をもとに考察する問題や、論理的・科学的な思考力を要する問題については、依然として正答率が低かった。今後も、グラフ等を作成する能力や、考察した内容を論理的に説明する表現力の育成が望まれる。

【英語】

リスニング問題については、自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞き取る力をみるものであったが、正答率は高く、中学校での聞き取る力を伸ばす指導の成果がうかがえる。英語で表現する力については十分とはいえ、基本的な語彙を用いて表現できる力が一層求められる。分量のある英文を読んで概要を把握する力は概ね良好といえるが、重要な事柄について文構造に注意しながら正確に読み取る力は不足している。今後は重要な部分について細部を正確に読み取る力の育成が求められる。